J-SHINE 通信

2017年12月号

大野八重 さん

小学校英語上級指導者、英検一級
2004年に指導者資格を取得。2007年より横浜市内の公立小学校3校にて英語活動を支援。
現在も市立富士見台小学校で活動中
教育支援協会放課後ENGLISH指導者

■J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

OL 時代に通訳を目指して学校に 8 年間通っていましたが、 結婚、出産後、 家庭と両立してできる仕事をしたいと考え、 J-SHINE の資格を取得しました。 ちょうど横浜市で小学校英語サポーターの募集があり、 採用が決まり最初は ALT のサポートとして授業に入り、 数年して 1 人で授業を担当させて頂けるようになり、 学校長の推薦を頂き、 上級指導者資格を取得致しました。

■現在の活動状況

横浜市は全校に ALT を配置しており、 授業は ALT と学級担任で行い、 足りない授業を私達サポーターと担任で行ったり、 ALT のサポートとして授業に入っています。 今年で 10 年目になる冨士見台小学校では、 カリキュラム Yokohama International Communication Activities 事例集に基づいて全学年の授業を行っていますが、 ありがたいことにレッスンプラン、 アクティビティについては私の好きなように組んでもよいと言っていただき、 毎回どうしたら楽しく英語に触れてもらうことができるかを考え、 良質の教材、 アクティビティの工夫を行っています。 低学年の授業では、 まずは大量の良質の英語の音のインプットが必要だと考え、 warm-up では必ず歌、 チャンツを入れて、 できたら身体も動かして、 英語の楽しさを身体で体感させます。 最近ではすべての教室にパソコンと連動したテレビを配置しているので、 授業の始めに、 できるだけその日のトピックに関連した DVD をモジュール的に使用して、 視覚的にも児童を楽しませ、 授業に期待をさせるよう心掛けています。 そのあとで、 英語を通したコミュニケーション活動ができるアクティビティを一つ、 二つ入れて、 なるべく最後にクールダウンとして絵本を読むようにしています。

低学年の子ども達は絵本が大好きでどの子も真剣な眼差しで絵本を見つめます。 やはり、 絵本は子供の心に入り込む力があり、 想像力を養う事ができます。 また、 異文化を体験できたり、 言語習得に必要な技能の習得にも役立つ優れものです。 音声のインプットにも効果を奏します。 一方、 高学年の授業に入る時には、 児童の知的好奇心を満たすような工夫と英語の発話に関しては、 児童ができそうな表現の発話に留めて、 自信を持たせることが大切だと考えます。 以前イギリス人の ALT の授業に入った時、 修学旅行についての感想をペアで前に出てきて発表するというアクティビティで、 予め用意した原稿を生徒に覚えさせて読ませていましたが、 児童は意味も分からない英文を読むことで英語の発話に対する自信を無くしてしまっているように思えました。 私はまだ小学生のうちは、 簡単な英語表現であっても聞けた、 言えたという自信をつけることが何より大切であると考えます。 英語を嫌いにしないままで中学生になってもらいたいと願っています。

一方で授業の始めの warm-up では低学年とは異なり、 歌を歌うのは恥ずかしい年頃なので、 モジュール的に道徳的なトピックを扱った英語の shortstory を見せて、 どんなテーマだったかを聞き、 どんな表現が聞き取れたか確認しています。 先日も 6 年生のクラスで行いましたが、 さすが最高学年だけあって 1 回の視聴でどんな話かは聞き取ることができていて、 表現についても多数の児童が発言してくれました。 こういった授業を自由にさせて下さる学校にも大変感謝しております。 私は、 この小学校では放課後英語のクラスも週 3 日、 5 クラスを担当させて頂いているので、 放課後のクラスの児童が学校の授業で、 積極的に手を挙げて発言して活躍している姿を目にすると大変嬉しく励まされます。 先日も 6 年生の授業で活躍していた児童が授業後に駆け寄って来てくれて、 低学年の時に私の放課後レッスンを受けていて、 今も英語が大好きですと話してくれて、 長く続けてきて良かったと思いました。

■今後の展望、課題、目標

小学校に入って様々な経験を積ませて頂き、小学校に非常勤職員として入りたいという気持ちが生まれ、英語が教科になる動きもあり、通信教育で教員免許を取得する事を決心しました。主人の海外単身赴任、息子の受験等あり、年数が経過しましたが、今年 5 月に市内の小学校に教育実習に入ることができました。英語はまだ教科でないので、実習中や研究授業も、算数、国語、音楽などの教科に限られましたが、想像を超えてはるかに楽しくとても充実した時間を過ごすことができました。そして、現場に身を置くことで、いかに小学校には数多くの問題が存在して、教師も奮闘しているかが実感できました。また、現場としては、ただでさえ大変な状況の中に英語教育が入ることに負担も感じているように思えました。私も英語教育推進派ではありますが、小学校は英語だけする場所ではなく総合的な人間教育育成の場所でなければならないと考えます。その一助に今後なれたら嬉しいです。私は現在横浜市の小学校に通う英語を母国語にする児童の勉強も見ています。今後国際化の流れが進む中で、外国に行かずとも、日本にやってくる外国人の数は増える一方で、こういった児童へのサポートもしていけたらよいなと考えております。先日の教職講義で“学び続ける教師にしか学ぶ子供は育てられない”と教わりました。私も常に学びをあきらめずに子供たちと進んでいきたいです。

＊J-SHINE 通信 Web ページ

この 2017 年 12 月号をはじめ、過去に発行した J-SHINE 通信はすべて J-SHINE の Web サイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

http://www.j-shine.org/tsuushin.html

今月の花　水仙